

放射線科を受診している患者さんへ

当科では、下記の臨床研究を実施しています。この研究は、金沢医科大学 臨床研究倫理審査委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に従い、臨床研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づく実施について審査され、その実施が認められた研究です。

ご自身の検査情報などの本研究への利用を拒否される方や、この研究に関するお問い合わせなどがある方は、以下の問い合わせ先までご連絡ください。

連絡時にはご氏名、該当される患者様の当院診察券に記載された番号（ID）をお知らせ下さいますようお願いいたします。

この研究に画像が使用されても個人情報公開されることはありません。

また、過去に撮影された画像を使用する為、新たな検査などが追加されることもあります。研究によって得られた知的財産の所有権は研究組織に属するものとなります。

研究課題名：肺腺癌の病理学的悪性度予測における MRI ADC ヒストグラム解析と F-18 FDG PET を用いた Metabolic volume または Total lesion glycolysis の有用性の比較検討

担当科等：放射線科

研究責任者：放射線科 助教 道合万里子

研究の意義・目的：肺腺癌の術前の悪性度の評価としては F-18 FDG PET による SUV max が指標として使われているが、腫瘍全体をとらえたものではない。MRI DWI の ADC ヒストグラム解析や F-18 FDG PET の Metabolic volume、Total lesion glycolysis は腫瘍全体をとらえたものであり、悪性度の評価としてはより正確であることが考えられる。よって、術前に撮影された画像からこれらを測定し、病理学的悪性度の相関を検証することによって、より高精度の術前の悪性度予測の指標が得られることが期待できる。

対象となる患者さん：2012 月～2016 年 12 月までの間に術前に拡散強調 MRI 検査、F-18FDG PET 検査を施行し、病理組織学的に肺腺癌と診断された患者さんを対象とする。この研究は、患者さんに新たな検査を受けていただく必要はない後ろ向きの検討とする。

研究の方法：術前に撮影された F-18 FDG PET、胸部 MRI 画像を用いて、後ろ向きに解析ソフトを使用し F-18 FDG PET より SUV max、Metabolic volume、Total lesion glycolysis の測定、拡散強調 MRI 検査より ADC ヒストグラム解析

を行う。それぞれの項目に対し病理組織学的悪性度による比較検討を行い、有用性を検討する。

個人情報の取り扱い：本研究で得られた情報は全て「連結不可能匿名化」という、個人が全く特定できない形にして解析を行いますが、情報提供を希望されない方は下記へご連絡ください。

また、研究結果は学会や論文などで発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

その他 この研究のために、患者さんに新たな検査や費用が追加されることは一切ありません。

問い合わせ先 金沢医科大学病院 放射線科
助教 道合万里子

TEL：076-286-2211（内線：3236）

FAX：076-286-8096

E-mail: radiol@kanazawa-med.ac.jp